

平成28年度 行政評価事業別シート

実計対象	<input checked="" type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	宮沢 吉浩
全体計画						経費区分		実施計画事業費		内線	246-9000
事務事業名	4142 ごみ処理施設運営事業										
所 属	140100 環境部・生活環境課										
施 策	03011200 循環型社会の形成と環境衛生施設の適切な管理										
予算科目	会計	01 一般会計									
	科目	040202 衛生費・清掃費・清掃センター費									
	事業	030000 ごみ処理施設運営事業									
事業目的						事業概要・効果					
市内から排出された一般廃棄物の適正処理及び管理を行い、健康且つ清潔で衛生的な市民生活の確保を図る。また、廃棄物のリサイクルを推進し、循環型社会の形成を促進する。						清掃センターに搬入された可燃ごみの焼却、不燃ごみの破砕等の適正処理を行う。 ごみ処理に際し有害物質の発生を抑制し、自然環境の保全を図る。 搬入された廃棄物から再利用可能な資源物を分別し、リサイクルを行うことにより、循環型社会の形成が促進される。					

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 予定
ごみ処理施設及び粗大ごみ等処理施設の適正な運転管理を行い、安全かつ安定したごみ処理を行った。	ごみ処理施設及び粗大ごみ等処理施設の適正な運転管理を行い、安全かつ安定したごみ処理を行う。
平成29年度 予定	平成30年度 予定
平成31年度 予定	平成32年度 予定

指標名	客観性のある安定した指標が困難である。				
算式					単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					
指標名					
算式					単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					
指標名					
算式					単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					

事業費

(単位：千円)

		平成27年度 決 算	平成28年度 予 算
事業費		204,463	220,450
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	80,629	129,674
一般財源	123,834	90,776	
人員数(人)	正規職員	3.2	3.2
	嘱託職員	9.1	9.1
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	23,065.6	23,065.6
	嘱託職員	24,615.5	24,615.5
	臨時職員	0.0	0.0
	計	47,681.1	47,681.1
市民一人当たりの経費	4.8	5.1	
総額	252,144.1	268,131.1	

(単位：千円)

平成27年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	121,981	消耗品費15,500、燃料費4,037、電気料29,655、修繕料72,789
13節 委託費	46,241	機器点検委託料2,106、ばいじん量等測定委託料1,728、焼却灰等処分委託料37,877、使用済み乾電池運搬処理委託料844外
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	36,241	土地借上料5,163外

(単位：千円)

平成28年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	125,467	消耗品費18,416、燃料費4,452、電気料32,599、修繕料70,000
13節 委託費	56,553	機器点検委託料2,970、ばいじん量等測定委託料2,429、焼却灰等処分委託料44,479、使用済み乾電池運搬処理委託料1,005外
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	38,430	土地借上料5,163外

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	高い
評価コメント	衛生的な市民生活を保持するため、適性なごみ処理を行わなければならない。安全に施設の運転ができるよう努めた。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	普通
評価コメント	ごみの適性処理のため、ごみの搬入時に分別指導等を実施した。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	やや向上
評価コメント	老朽化した施設を維持管理していくために、修繕内容を精査したうえで、必要な修繕を実施した。また、正規職員が減員となる中で、毎月の安全推進会議の実施、クレーン等運転講習への参加など、継続して、安全に適性なごみ処理ができるように努めた。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

長野広域連合による焼却施設が、平成30年度に稼働予定であり、それを見据えた上での施設修繕を行うなど、費用対効果を特に考慮しながら事業を実施した。また、多くの正規職員が嘱託職員に配置換えされる中で、現場職員も互いに協力して、継続して適性なごみ処理が実施できるよう努めた。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続	次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント		2次評価コメント	
衛生的な市民生活を維持するためには必要不可欠な事業。長野広域連合による広域ごみ処理移行まで、安定安全な施設稼働を維持する。		衛生的で快適な市民生活を確保する上で、欠くべからざる事業。広域ごみ処理を控え、それまで確実な施設維持が求められている。併設された不燃ごみ処理施設の扱いについて検討中。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	